

THE KILLER WHALE TIMES

H30 対北大定期戦号

皆さんこんにちは、三年目タイムス班の高瀬です。8月12日(日)、茨戸ポートコースにて対北海道大学定期戦が行われました。今年度は対校クルーとして男子舵手付きフォア、交流戦としてOBエイト、女子シングルスカル、新人男子舵手付きフォアのレースが行われました。対校フォアはインカレへの前哨戦となった今大会の結果をお知らせ致しますので是非ご覧ください。



Race Results レース結果

○新人男子舵手つきフォア

順位	クルー	500	1000
1	北海道大学	2:04.70	4:10.20
2	小樽商科大学	2:19.90	4:32.90

○女子シングルスカル

順位	クルー	500	1000
1	田畑七奈(小樽)	2:16.60	4:30.90
2	山谷有紀(北大)	2:16.10	4:32.70

○男子対校舵手付きフォア

順位	クルー	500	1000	1500	2000
1	北海道大学	1:41.40	3:26.60	5:15.20	6:52.80
2	小樽商科大学	1:41.00	3:25.80	5:13.60	6:53.90

Comment クルーコメント

○荒井隼人(男子対校舵手付きフォア)

2年目の荒井です。今回対校フォアで2番を漕がせていただきました。

結果から言うと1秒差で負けてしまいました。どちらが勝ったか漕いでいた自分たちにはわからないほどの差でした。レース展開として第3Qまで勝っていたものの最後の最後に抜かれるとういものです。必死に漕いでいたのでレース中のことは正直ほとんど覚えていません。しかしレースを終えて北大の勝利を知り、北大クルーと応援の喜ぶ様子は頭に残っています。

インカレまで少ししか時間はありませんが、技術面や艇速はまだまだ向上できるはずです。北大戦でた反省点はまだ改善できるとポジティブに捉えるしかありません。平成最後の夏。今回負けた悔しさを糧に目標に向かって精進していきたいと思います。



○田畑七奈(女子シングルスカル)

今回、女子シングルスカルに出させていただいた2年目の田畑です。

1000mの「交流戦」ではありましたが、定期戦で女子種目が復活したのが数年振りと言うことで、貴重な機会に携わる事ができ嬉しく思います。来年度以降もこの流れが続いて欲しいと思っています。

しかし、今でこそこのように言えますが、実はレース直前までとても後ろ向きな気持ちでした。なぜなら相手が4年目で技量も経験も格上の方であったからです。勝つ望みは僅かだが必死に喰らいついでいこう、そんな気持ちでレースに臨みました。

レースはスタートで少し出遅れたものの、最後まで相手が視界に入っているような大接戦でした。離されるものかと喰らいついでいた結果、最終的に粘り勝つことができました。今回の勝利は負けず嫌い精神で掴み取ったものだと感じています。勝てないと思っていた相手に勝てたことは大変嬉しかったのですが、同時に最初から勝敗が決まっている勝負なんて無いのだということも身を持って学びました。

今後は技術の向上と持久力の強化を重点に置き練習に励んでいきます。また有り難いことに、現在谷津監督をはじめとしてバックスタッフであったりボート協会の方であったりと、多くの方々に練習を見てもらいご指導頂いています。この決して当たり前でない状況に感謝しながら、一つも無駄にならないようにしっかり教えを吸収していこうと思います。

○松繁正和(新人男子舵手付きフォア)

新人 joy4 で整調を担当しました松繁です。当日はその雰囲気飲まれたのか、練習よりもレートが上がってしまいクルーに苦勞をかけました。しかしみんなきちんと合わせてくれたおかげで、スタートは出遅れてしまいましたが、その後はしばらく食らいついていけました。

今回は負けてしまいましたが、これからの大会でしっかりリベンジしていきたいと思います。



○小野寺航(新人男子舵手付きフォア)

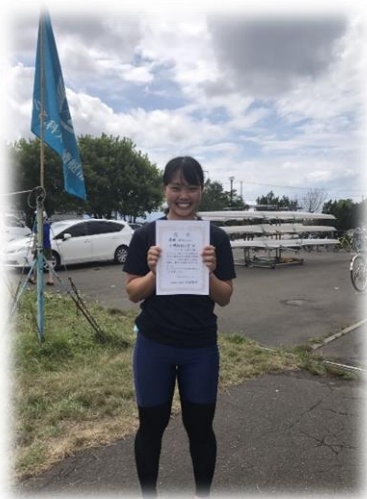
「 コックスをして」

こんにちは、2年、新人トレーナーの小野寺です。今回の商大と北大の定期戦の、新人ナックルフォアのレースでコックスを務めました。

新人トレーナーといってもヘルニアを患ってしまい、漕手として活動できなくなってしまったためにトレーナーをしているという自分にとってこの大会でコックスをするということにはとても大きな不安と緊張がありました。知識はあっても自分の身体で試せないことを他の人に指摘し、指導することはとても難しく、常に自信が持てない状態だったからです。

結果、北大の新人フォアに敗北してしまいました。今回の自分のコックスぶりにも沢山の課題が見つかりました。

4年生が引退する来季から、自分の新トレとしての責任はますます大きくなります。自分の使えない身体でやっていくことにはまだ不安がありますが、今回知った課題を解決して、持った責任に見合えるようにやっていこうと思います。



監督兼ヘッドコーチ報告

監督 谷津法彦(平成5年卒)

☆対北海道大学定期戦について(H30年8月12日)

去る8/12(日)、対北大戦が行われた。



例年より1か月ほど遅い定期戦である。これは北大・商大両校とも9/6～9に行われるインカレに付きフォアで出漕する事が春先から決まっていたので、その前哨戦にと言う事で北大・江川監督と話し合っただけの日程であった。両校の男子インカレ出漕クルー同士で定期戦を行うのは何年ぶりであろうか。

対校フォアはS.鈴木(4)、3.末吉(3)、2.荒井(2)、B.後藤(3)、C.西谷(2)と、茨レガと全く同じ。シートレースも無く、4月からずっと同じメンバーで練習を重ねてきた。前回のタイムスでも触れたが、茨レガの前から痛めていた3番のあばらが結局疲労骨折と診断され、1週間ほど安静を余儀なくされた。クルー練習が復活出来たのは7/11から。2,000mを見据えたスタミナ対策や、茨レガでの反省を活かして高レート漕ぎに磨きをかけるなどの目的で練習を重ね始めたちょうどその週末15日に、元東大ボート部ヘッドコーチの氏家さんが茨戸に泊まりで来て頂いた(全国のボート水域を回って地元チームとの交流を図っていた途中だったそう)。その際にリギングや漕ぎ方についてアドバイス頂く事が出来た。

しかし調子が上がってきたところで7/24の練習を最後に試験期間に突入。8/4からやっと合宿を再開。自主練習を欠かさなかったとは言え、北大も同じ頃に試験期間だった訳で、今思えばこの期間まるまる合宿しなかった商大とここで差が付いたと言えなくも無い。練習を再開した途端今度は2番が前腕の屈筋を痛めて更に4日間クルーとしての練習が削られた。これが本番の5日前である。それでもレース前日までにはかなりベストの滑りは出てきて、いいレースになる予感があった。相手はスプリントに勝ると見たので、ラストクォーター勝負になるときつい、1,500mまでに1艇身差をつけてもまだ安心出来ない、それまでに水を開けて勝負を付けようと伝えた。

しかし結果的にはその予感が的中した形となった。ハイレートでの漕ぎ込み不足がたたったか、第3クォーターに入ってr.34だったコンスタントレートがr.31～32にまで落ちて、1,500m地点通過でのリードはわずか1秒。そこから抜かれ、ラストスパートでは両校譲らぬデッドヒートとなったが、最後は1秒1というわずかの差で北大が制した。

ここまで書くと商大がケガに泣いたと思われるかも知れないが、同じ時期に北大も主将が背中を痛めて離脱、医学部の5年目が急遽整調に乗る事になり、おまけに艇も故障して商大艇(しゃち10)を借りるというアクシデントが続いた。

しかも振り返ってみると、6/30の茨レガでは直接対決ではなかったものの、タイムだけ比べれば商大が北大より2秒勝っていた。その後不定期に低レートロングなど並べてもほとんど商大が勝っていた。茨レガから1ヶ月半、アクシデントにもめげず、艇の差(商大は5月に進水したばかりのフィリップ製しゃち11、北大はその先代のしゃち10)にも負けずにしっかり間に合わせてきた、北大の底力にあっばれと言うべきであろう。商大同様ただでさえ人数が少ない上に怪我人も多く、決まったメンバーで練習する機会の少なかった北大だが、チームとして「勝ち方」というか「持って行き方」を知っている。そこを見誤った自分の甘さを反省している。

ただレースとしては漕手はよくやりきったと思うし、間違いなく両校の定期戦史に残る名勝負だったと言える。北大関係者の方々、ギャラリーの皆さん、審判長の東さんなどから多くの賞賛の声を頂けたのは非常に光栄であった。

もう一つ、対校戦でなく交流戦(1,000m)という位置づけではあったが、女子シングルの田畑(2)のレースにも触れておきたい。

ダブルスカルで茨レガ準優勝を成し遂げた後、相方の高瀬が漕手を引退した為本格的にシングルに転向。以前からの脚の故障との戦いで、思うように練習を重ねる事が出来ないもどかしさはあったと思う。それでも限られた時間で、フィニッシュの押し切りにこだわって長いレンジで艇を進める練習をしてきた。経験も浅く、技術もまだまだだしレートも低いが、そこは開き直ってワンストローク毎に持ち前のパワーを活かす戦法をとった。ハイレートの相手に対してずっと半艇身差で付いていき、粘り強く漕ぎ通す中で最後の勝機をものに出来たのは見ているこっちも嬉しくなった。国体では北海道代表の一員として成年女子ダブルスカルで出場する。今回のレースを自信に成長し続けて欲しい。

さて、前述の通り次のレースはいよいよ9/6~9の全日本大学選手権である。商大からは北大戦の男子舵手付きフォアがそのまま出漕する。北大戦では本番で軽い順風の中、ベストタイムの6分53秒90を出した。このレベルが戸田まで維持出来れば準決勝進出が見えてくると思われる。怪我に気をつけながらフィニッシュの加速感、ハイレートへの順応力を高めていきたい。

日々の詳しい練習内容や感想は私のブログ「谷津の穴」をご参照下さい。

ご意見・ご要望等あれば私の下記アドレスまでお願いします

n_tanitsu@yahoo.co.jp

後援会費について

後援会費は、原則として1年で¥10,000の定額です。¥10,000以上の金額をいただいた場合も、後援会費としてお預かり致します。後援会費はほぼ全額が現役部員の活動援助金として充てられますので、できる限り多くの皆様のご協力をお願い致します。(尚、後援会会則に則り、満年齢65歳以上の会員の方・既婚女性の会員の方は原則後援会費は免除扱いとなっています。)

後援会費は、日本信販の自動引落サービスをご利用できます。できる限り多数のOBの方々をご加入下さいますようお願い致します。ご加入方法及び引き落とし口座の変更につきましては、現役会計(藤村園子)か担当の平成10年卒 佐藤公洋までお問い合わせください。振込先はこちらとなっています。

ゆうちょ銀行 店名・店番:908
口座番号:1532438 (普通預金)
北洋銀行 店番:341
なまえ:オタルシヨウカダイガクソウ
口座番号:3657349
取引店:小樽中央支店

連絡先: 会計 2年 荒井 隼人
TEL: 080-3571-6710
MAIL: ft_madrid_0626@icloud.com

❖個人情報保護の取り組み❖

後援会会員の方々には、小樽商科大学漕艇部の活動に必要な情報として、お名前・連絡先・勤務先などの個人情報をご提供いただいております。小樽商科大学漕艇部では、ご提供いただきました個人情報につきましては以下のように取り扱います。

- ・会員の方々の個人情報の利用については、小樽商科大学漕艇部の活動(後援会誌『しゃち』や『Killer Whale Times』の発送・配信など)の範囲内での利用に限定します。

- ・ご自身に関する情報の訂正・削除などのご依頼があった場合は、特別の理由がない限り対応をいたします。

- ・会員の方々の情報保護が確実に実施されるための継続的な改善を行い、適切に管理いたします。

ご意見やご提案等がございましたらお問い合わせください。今後ともよろしく願いいたします。

連絡先: 主将 3年目 末吉祐馬
TEL: 080-8290-0129
Mail: rowing1937@yahoo.co.jp